

第46期（令和5年度）事業の概要について

令和6年6月28日

千葉都市モノレール株式会社

◇ 事業の概要

当期の業績は、年間輸送人員が延べ1,916万人（前期比107.24%）、一日乗車人員が52,350人（前期比106.94%）となり、4年振りに一日5万人台に回復しました。

また、運輸収入は33億46百万円（前期比107.90%）、運輸雑収は1億97百万円（前期比106.81%）となり、営業収益は35億44百万円（前期比107.84%）となりました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行（令和5年5月8日）以降、行動制限のない日常生活が戻り、乗車人員・運輸収入ともに、コロナ影響前の水準（令和元年度）に肉薄し、令和元年度比で輸送人員98.71%、運輸収入99.02%と復調しました。

通勤定期は、前期比105.31%（8,679千人）となり、令和元年度との比較においても、99.21%とほぼ同数の利用者数まで回復しています。

通学定期も、前期比103.50%（1,865千人）となり、通勤定期同様、年度を通して安定した利用が見られ、令和元年度比101.50%と、コロナ影響前の水準を超えています。通勤・通学定期全体では前期比104.99%（令和元年度比99.61%）となりました。

一方、営業費については、給与のベースアップ等による人件費の増加のほか、昨年更新した運行管理システムやITV装置等の減価償却費などにより、全体として32億69百万円（前期比103.77%）となっています。

これらのことから、営業利益は2億74百万円、経常利益は3億28百万円、当期純利益は4億1百万円となりました。

そのような状況において、中期経営計画（2022-2024）の基本戦略である「安全・安定輸送の継続」、「困難に打ち勝つ『企業力』の強化」及び「誰にでもやさしいサービスの提供」の3項目を着実に推進し、お客様が安心してご利用できる環境の構築や利用促進等に努めてまいりました。

1. 安全・安定輸送の継続

安全・安定輸送の継続への取り組みとして、「令和5年度 安全重点施策」に掲げた「事故及び輸送障害・自然災害への対応」、「安全管理体制の強化及び教育訓練等の実施による安全意識の向上」及び「経年劣化設備の更新、点検保守」の3項目を柱として次の施策を推進しました。

事故及び輸送障害・自然災害への対応については、国が主導する「運輸防災マネジメント」に対応するため、令和4年度に策定した「防災タイムライン（風水害編）」の活用訓練を通じた見直しを図ったほか、本年度は新たに「地震編」を策定しました。今後も、他の自然災害等に備えた初期対応マニュアルの作成や訓練を実施し、予期せぬ災害等に臨機応変に対応できる体制を構築してまいります。

安全管理体制の強化及び教育訓練等の実施による安全意識の向上については、輸送安全総点検や内部監査の実施による当社の安全管理体制の確認、安全対策会議（マネジメントレビュー）における年間施策の振り返りの実施のほか、お客様に安心してご利用いただくため、テロ等を想定した沿線警察署や消防署との合同訓練や講習会の実施にも取り組んでいます。

そのほか経年劣化への対応として、車両や設備故障に備えた現場訓練等を継続的に実施し、安定輸送の確保に備えています。

経年劣化設備の更新等については、京葉道路横断橋検査路の更新、千葉駅転てつ機更新（4箇所完了）、高圧配電線や電力管理システムITVの更新、また、保守点検作業として、軌道桁等の塗替塗装工事、駅舎等落下物対策・補修工事のほか、駅転落防止床の更新を実施しました。

また、1000形（3次車）の更新用として0形車両を1編成導入しました。

2. 困難に打ち勝つ『企業力』の強化

将来を見据えた経営環境の強化として、人材育成に注力し、会社に貢献できる人材へと成長させるため、社員教育の充実を図ったほか、年齢断層による技術継承問題に対処するため、中間層（主に30代）の社会人経験者採用を実施しました。これにより、駅、車両、及び技術部門の年齢構成が平準化しつつあります。

また、収入増・経費節減策として、クラウドファンディングを活用した沿線エリア活性化プロジェクトとして「モノちゃんピアノ」の設置や、感染症対策等の制限解除となった地域限定旅行業に積極的に取り組んでいます。

そのほか、環境対策として、非化石証書契約による再生可能エネルギーの導入によるCO2排出量の削減や「千葉市脱炭素先行地域コンソーシアム」へ参画しています。

沿線地域と連携した取り組みについては、4年振りの開催となったモノレール祭りや沿線・他社イベントへの出店のほか、インバウンド需要を見込んだ成田空港への英語版ちらしの配架等、物販及びPR活動による増収活動に努めました。

3. 誰にでもやさしいサービスの提供

お客様へのサービス向上の取り組みとして、ソフト面では季節を感じる暖かみのある駅装飾の実施、接客研修やサービス介助士資格の推進、ハード面では駅照明のLED照明化の推進、駅階段の段差識別表示、ホーム縁端部の滑り止め更新工事及び内方線設置工事等、環境やバリアフリーを考慮した対策も計画的に推進しています。

◇ 輸送人員及び運輸収入

		第42期 (令和元年度)	第45期 (令和4年度)	第46期 (令和5年度)	対第42期比 (令和元年度)	対第45期比 (令和4年度)	
営業日数(日)		366	365	366	—	—	
輸送人員(千人)	定期外	8,824	7,822	8,615	97.62%	110.13%	
	定期	通勤	8,748	8,241	8,679	99.21%	105.31%
		通学	1,837	1,801	1,865	101.50%	103.49%
		計	10,585	10,043	10,544	99.61%	104.98%
合計		19,410	17,866	19,160	98.70%	107.24%	
運輸収入(百万円)	定期外	1,973	1,766	1,946	98.62%	110.16%	
	定期	通勤	1,215	1,147	1,207	99.33%	105.23%
		通学	190	186	192	101.18%	102.96%
		計	1,405	1,334	1,400	99.58%	104.92%
合計		3,379	3,100	3,346	99.02%	107.90%	
運輸雑収(百万円)		197	185	197	100.27%	106.81%	
収入合計(百万円)		3,576	3,286	3,544	99.09%	107.84%	

※ 区分毎に千人未満または百万円未満切り捨てにより、計・合計・増減が一致しない場合があります。

その他の決算資料は、弊社ホームページ決算概要をご参照ください。

<https://chiba-monorail.co.jp/index.php/company-info/kessan/>

以上

<お問い合わせ先>

千葉都市モノレール株式会社 総務部経営企画課

電話 043-287-8216